

平成 27 年度 第 2 回 佐渡市総合教育会議 議事録

開催日	平成 27 年 8 月 18 日 (火)	会場
開会時刻	午後 1 時 30 分	佐渡市役所 3 階 大会議室
閉会時刻	午後 2 時 53 分	
出席者		
市長 甲斐 元也	教育委員会 委員長	仲川 進
	教育委員会 委員長職務代理者	仲川 正道
	教育委員会 委員	仲川 美紀
	教育委員会 委員	金子 眞理
	教育委員会 教育長	児玉 勝巳
説明のため出席した職員		
総務課 課長 渡辺 竜五 課長補佐 伊藤 賢治 庶務係長 金子 高敏	学校教育課 課長 吉田 泉 管理主事 山田 裕之 課長補佐 北見 和子	
総合政策課 課長 小林 泰英	社会教育課 課長 越前 範行 社会教育係長 渡邊 一哉	
傍聴人数	2 人	

会議に付議した議題

(1) 大綱の策定について

吉田学校教育課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本日はご多用の中、平成 27 年度第 2 回教育総合会議にご出席いただきありがとうございます。定刻になりましたので、会議を開催させていただきます。なお、本日も前回同様会議を公開しておりますので、よろしくお願いいたします。 ・ 本日は、佐渡市教育大綱の策定ということで、大綱の内容を中心にご協議いただきたいと思います。それでは、議事の進行につきましては、佐渡市総合教育会議運営要綱第 3 条第 2 項の規定によりまして、甲斐市長からお願いいたします。よろしくお願いいたします。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ はい。今日はどうもありがとうございました。第 1 回の時に、いろいろと内容等につきましていろんな意見を出していただいたわけであります。その中で、事務局の方としては、それらに基づきまして、今日は佐渡市教育大綱の案というものが皆様方のところへ行っているかと思えます。これについてですね、今日はご協議いただくというのが主たる狙いでございます。 ・ まずですね、協議をいただく内容は佐渡市教育大綱の案でありますけれども、項目立てと言いますか、これについてまずご協議いただいて、その後でそれぞれの項目ごとにご審議をいただくと、こういう流れで参りたいと思っております。 ・ 最初に佐渡市の教育大綱の案の中の項目立てについて、まず事務局の方から、学校教育課の方から説明を願います。
吉田学校教育課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ はい。本日、大綱の案として提示をしました。これまでの経過等でございますけれども、まず 6 月 30 日に開催しました第 1 回会議の中で、大綱のイメージということで、資料を提示しご説明をさせていただきました。その形式としましては、佐渡市将来ビジョンや佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略を参考にしまして、第 1 章から第 3 章までの章立てということで、その下にまた項・号等を予定しておりました。しかし、当日のご意見の中に他市町村の策定の状況につきましては、形式とか項目、分量等様々でございます。佐渡市においてはわかりやすいシンプルなもので良いのではないかというご意見もありましたことから、まずは形式については今回第 1 項から第 4 項までの項立てとさせていただきます。それによりまして、より簡素化することといたしました。 ・ 次に、大綱の内容ということになりますけれども、第 1 回会議のご意見を踏まえまして、事務局において佐渡市の将来ビジョンや佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略に関連付けまして、素案を作成いたしました。その後、その素案を市長のお考えや教育委員の皆様のご意見などを参考に、修正を加えさせていただきます。本日電案としてお示ししております。内容は、前文という形でまず「はじめに」。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ ちょっと待ってください。項立てだけ先やっちゃおう。
吉田学校教育課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ はい。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今、事務局の方からですね、佐渡市の教育大綱の項立てが 1、2、3、4 で

	<p>よろしいかどうか、この辺をまず皆さん方から決めていただきたいと思いますとおりますが、どうでしょうか。ご意見お聞かせいただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新潟市のを見ると、簡単なんだよな。
吉田学校教育課長	<ul style="list-style-type: none"> はい、そうです。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> 詳しくするのがよいのか、簡単にするのがよいのかわかりませんが、この辺はいかがでしょうか。「はじめに」があって「基本理念」があって「基本方針」があって、「基本目標」という書き出しになります。
仲川委員長	<ul style="list-style-type: none"> 項立てがどうかということですが、そのことについてですけど、私、思うこと言わせてもらおうと、どうもこの項立てが落ち着かないなって気持ちなんです。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> 落ち着くようなのを教えてください。
仲川委員長	<ul style="list-style-type: none"> 見せてもらってですね、そんな気がしてならない。何かって言うと、「はじめに」はよいとして、次は基本理念というか、中身は別としてね、3の基本方針と4基本目標、これのところがどうも落ち着かないなど。なぜかなあと考えてみたんですけどね、いろんなもっていき方はあるんでしょうけれども、まず1つは他の市町村のものを参考にさせてもらいながら考えると、目標があって方針があるんじゃないかなという気がするののひとつ。 それから、こうやって分けるということが、方針と目標を項として分けて云々していくというのが必要なのかなって、そんな気がしています。この案のとおり考えていくと、方針の項を起こしたもんですから、じゃあどんなことを方針の中に入れたらよいのかというようなことになって。間違いかもしれませんがね。 基本方針の中についてはあまり意味ない、そんなところにひっかかりました。もうひとつは、基本目標の方を見てみると、(6)までありますけど、これが基本方針ではなかろうかなと、そんな気がしてならないんですね。実は県の振興基本計画ですね、これを見せてもらっておりましたが、この基本目標の(1)から(6)まで、これは県で言うすべて方針なんですね、県ではですよ。県と一緒にせよと言うわけではないんですけど。 ちなみにちょっと話すると、県の基本方針というのは、学ぶ意欲を高める、ここでいう(1)。県の基本方針のキャリア教育の推進は、関連としては(2)。(3)には安心・安全な、最後のものが来てますけどね。このように県では基本方針を掲げて、後に27項目ですか、入れてあるんですけども。これの方が、県との繋がり、繋がる必要ないと言えればそれまでなんですけども、安定するような気がするんですけどね。そんな気がしました。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> はい。今、仲川委員長の方からお話があったのが、1のはじめと2の基本理念はこれでいいんじゃないかと。問題は、3の基本方針と4の基本目標のすわりが悪いと。特に4の基本目標に掲げているものが、これは実は県の方針でも例があるように、むしろ4の基本目標が基本方針ではないかというようなご意

	見があったわけでありまして。この辺みなさんいかがでしょうか。もし、事務局としてこの辺のことに對して考え方があれば説明をしてください。
山田管理主事	<ul style="list-style-type: none"> • はい。では、お願いします。実は、この方針と目標の順番付けについても、事務局の方でも項立てを作る時に検討させていただいたんですが、事務局内では最終的には広辞苑的なものも引っ張り出して、言葉の捉え所ということまで一応見たんですけども、ここで書かれている内容としては、方針の方は目指す方向のこと。目標とセットで使用される場合は目標を達成するための活動の方向付けや制約条件のことを指すというふうな表記があり、そのようなことから、方針の後に下位に目標が来るというふうな考え方もできるのではないかということによってこのような形にしてみたところです。 • 目標の捉え方もいろいろありまして、この場合は方針の下にありますから目標の方が下位になっているんですけども、定義の中には下位者の目標は上位の方針の範囲内で設定するというふうな言葉の定義もあったもんですから、このようにさせていただいたんですけども、ここはそれぞれ捉える方がわかりやすいものが大綱であると思いますので、皆さんのご意見で修正してもよいと思います。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> • そうですね。今、そういう、広辞苑の話も出てきたんですけども、ほかの皆さん方どうのご意見でしたかね、今のことについて。 • やっぱり、教育大綱がぽんと1枚出るわけですからその中でぱっと見てわかりやすいのが一番良いんだろうと思っています。いかがですか、委員の方々。
仲川（正）委員	<ul style="list-style-type: none"> • じゃ、私の方から。前回の会議で示された第1回目の案ですけども、これが表紙を除いて全部で4ページ。相当込み入っている気がしました。これはざっと読んでわからないと思います、というのが率直な感想で、事務局の方もこのところ読み取っていただいて、清書していただいたんだと。方向性としては、非常によい方向に来ているというふうに考えています。 • それから、理念・方針・目標のところですけども、県の基本計画に大枠で沿って立てたものと私は理解しておりますけれども、大きく1つ違うところは、県は基本理念の下に人づくりの姿、目指す人の姿というのがあり、その下に6つの基本方針というふうに書かれていると。佐渡市については、理念の次に方針、基本目標を6つ置いたという形になっておると思いますが、3つの基本方針を置いたことで、我々の市の教育の大きな柱立ては3つあると、学校教育と社会教育と家庭・地域教育があると。それを示したものと私は理解しておりますので、これはこれで悪くないのではないかとこのように考えます。今後、この基本目標に従ってその後の展開施策というのを実現していくと。それが、はじめに最後の文書に書かれている、本大綱を踏まえ、本市の教育振興基本計画を28年度末までに策定することとすると、こういう流れになるかとは思いますが、この柱立て、項目立てについては、私はこれでよいと考えています。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> • ありがとうございます。じゃあ、もう一人の仲川さん。

仲川（美）委員	<ul style="list-style-type: none"> 私は、基本方針というのは、佐渡市の目指す姿、方向であるというふうに捉えるものなのか、学校教育の目指す姿はこれ、社会教育、家庭・地域教育の目指す姿がこれということでここに示していて、その後に基本目標じゃあその学校教育の目指す姿の中で、何を目標にするのかということをごここでいくつか挙げて、それぞれの目指す目標が捉えているので、これはわかりやすいんじゃないかなって思いました。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> はい。ありがとうございました。金子委員はどうですか。
金子委員	<ul style="list-style-type: none"> 大筋では、今仲川さんがおっしゃったように中身はすごい出来ていると思います。四角で囲った学校教育とかの下のそっちのところ、目標のところ重なったりしている部分もあるので。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> 内容は後であれします。要するに、私今あの。
金子委員	<ul style="list-style-type: none"> 項立て。はい。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> ご協議いただいているのは、1、2、3、4という、こういう流れがどうなのかってということ。
金子委員	<ul style="list-style-type: none"> それは、これでよいと。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> ああ、そうですか。 児玉委員は、いいって言うだろうね。
児玉教育長	<ul style="list-style-type: none"> はい、基本計画佐渡バージョンを作る時に、やっぱり柱立てとなるものが、その4にある基本目標これを基に作っていきたいというような考えで、基本目標というような形で作成、提案させていただきました。 確かに、委員長おっしゃるような座りが悪いというか、そういうように感じる部分も確かにあるんですけども、学校・社会教育、家庭・地域というところで佐渡市は頑張っていくんだよというところを、この大綱に盛って市長部局と理解して連携して進めていきたいと、やらせていただきたいと思います。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> 委員長、そういう意見が大半なんだけど、その辺に対してはどうですか。
仲川委員長	<ul style="list-style-type: none"> 皆さんの意見はそれで。それぞれご意見をおもちなわけなんでね。いろいろこう見ても、方針と目標この2つ掲げながら云々しているのは、数は少ないように私はまあ受け取っています。先ほど事務局の話にもあったように、掲げるのであればやっぱり、私も一応辞書調べて喋ってるんですけども、目標を掲げた上で方針を。今まで、いろんな書類とか関係のもの作ってきて、私はそういう感覚でずっとやってきましたけど。また他の市町村のものを見てもそういうところが多いです。そういうことで私もお意見申し上げたわけなんですけども。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> その辺、事務局は目標があって、それを実現する為の方針だと。
仲川委員長	<ul style="list-style-type: none"> そう言われたんですね。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> 今ね、おっしゃったのがそういうことなんだけれども、さっきの話との関係はどうなりますか。
児玉教育長	<ul style="list-style-type: none"> 目標の方は下位って、下の方のカテゴリというかそういう捉えです。

甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> いや、目標が上に来て、ということですね。今の話はね、目標が上に来て、それを実現する為の方針だと、こうおっしゃる。これは、方針が上に来て、それを実現する為のが目標だと。その辺は皆さんどういように感じましたか。 要するに、これ拘ってるんだけど、最初のその頭の部分なものですからね、ここで、これは皆さんがやっぱり同意していただかないとうまくないんで。 どうですか。その辺は、皆さんの考え方。
吉田学校教育課長	<ul style="list-style-type: none"> 先ほど、山田管理が申しましたけれども、方針としては目指す方向、あと目標については、これもインターネット等で確認した中身でございますけれども、上位の方針の範囲内での目標の設定というくだりがございますので、並びとしては、あくまでもこちらはこれでよいという判断で、この案を作ってまいりました。 委員長の、確かにそのようなお考えも多分あるかと思いますが、私共は、その確認した範囲内でこの順番で進めていきたいと思っております。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> 私も学問的なことはちょっとわからんけれども、目標を実現する為の方針という考えが一つあるし、もう一つは、方針に基づいて目標を設定するという考え方ね。この2つがあるんですよ。
仲川委員長	<ul style="list-style-type: none"> 方針の次は施策ですよ。方針を掲げたらすぐ、どんな方針に基づいて実施するかっていういわゆる振興計画に繋がっていくもんだと思うんだけど、それはそれでこの（6）までで、ここで言う目標ね。それは、振興計画の施策に繋がっていくもんだと私は捉えているんだけど。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> 方針で言うのはどこへ来るんですか、今の。
仲川委員長	<ul style="list-style-type: none"> そうすると、方針という項を起こすならば、私は無理に起こさんでも良いと思うが、起こすとすれば、この（1）から（6）が方針ではないかなあ。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> 3番そのものが、方針というものが要らないってことね。
仲川委員長	<ul style="list-style-type: none"> これを方針として、方針の後にすぐ施策に入っていくとね。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> ううん。いや、そうじゃなくて、基本方針が要らないってことですね。
仲川委員長	<ul style="list-style-type: none"> 無くてもいいってことです。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> すぐに理念から目標に来て良いってことね。 その理由がよい、正しいかどうかは別としても、ほかのところはどんななっていますか。
仲川委員長	<ul style="list-style-type: none"> 私の調べた範囲では、両方掲げてあるところが無かった。
山田管理主事	<ul style="list-style-type: none"> 形式だけ言わせていただくと、本当に千差万別と言いますか、いろんな書き方があるので一概にこういうのが多いとかいうふうにもちょっと言いづらいところがあります。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> 「はじめに」があって基本理念があって基本方針があって、基本目標ってのはまず無かったって言うもんだからね。
仲川委員長	<ul style="list-style-type: none"> 一番最初に、小松市云々。小松市もこれではないよね。これは、佐渡市の

	独特の姿なんじゃないかと。それでいいんですけどね。
児玉教育長	<ul style="list-style-type: none"> 基本目標、目標という言葉が引かかる。今言ったその基本施策とか、こういう部分とかを変えたらいいかなと。基本目標、あの、例えば目標って言うと2060年までに人口これくらいまでに抑えたいっていう、そういう目標から、じゃそのためにっていういろんなやり方が。目標っていったところで引かかるそのイメージって言うのは確かにあるかと思うんで、4番の基本目標っていう言葉が、本当ぴったりする言葉があればそちらの方にこの言葉を変えるっていう方法もあるかと思えます。今、これにぴったりくる提案でなくて申し訳ないです。目標という言葉が気になるのであれば。
仲川（正）委員	<ul style="list-style-type: none"> 委員長の言っているのは、目標という言葉が気になるというよりも、方針という言葉と目標という言葉の重要度、どちらが上位・下位にあるかと、その位置付けまで言っているんだろうなと、こう私は思っているんですが、ただ一部の先程調べていただいたところに、より上位に方針があるというような文言があるということであれば、私はこれはこれで結構だというように思っています。前回出していただいた、第1次案の中にこの基本方針という言い方の前に、目指す姿と書いて（基本方針）とこういうふうに書いてあったものがここに来ているんだろうというふうに考えておるんですけども、さっきも言いましたが、学校教育と社会教育、家庭・地域教育という3つに大きく分けてこれから考えていきますよということを示したのであれば、この案を採用して私はよいというふうに考えます。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> 今のお話にもあるんですけど、委員長さん、どうですか。その辺でもの凄く座りが悪くて方向がおかしいということならば、どうですか。
仲川委員長	<ul style="list-style-type: none"> いや、私の考え、気持ちを述べましたんで、皆さんまた一緒に考えてくれれば、ね。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> 今のところ、多数決じゃないけども4対1なもんだから、そういう意味では。
仲川委員長	<ul style="list-style-type: none"> いや、結構ですよ。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> そういうことで、こういう柱立てと言いますか、項立てと言いますか、それについてはこれでご了承いただいたということで、前に進みたいと思っております。 それではですね、項立ての中、内容に入るわけでありますので内容について事務局の方から説明を願います。まず、1の「はじめに」から。
山田管理主事	<ul style="list-style-type: none"> はい。ではお願いします。大きく3つの段落で文章を構成してあります。1段落目は、大綱の位置付け的なものについて表記をしてあります。2段落目につきましては、関連計画とのいわゆる関連施策というものを整理して載せてあります。第3段落目には、この期間ということと、この後これを基に作ることになる佐渡市の教育振興基本計画策定についての記載をしたということでした。以上です。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> はい。それではですね、まず、「はじめに」という項ですね、この内容であり

	<p>ますが、今事務局から説明がありましたように、3つの部分で出来上がっているということでもあります。一つは佐渡市の将来ビジョンというものの、或いは今度作りました地方創生の総合戦略というものの。当然、佐渡市の将来ビジョン及び総合戦略の中に、教育がもちろん謳われているわけでありますので、これが一番目にあるということでございます。次に、国県との関連が当然必要でありますので、その部分が2番目にあると。3番目としては、年度を区切ったということと、これはあくまでも大綱でありますので、これに基づいた教育振興基本計画を28年度末までに策定するということを明記をしたと、こういう3つの内容に分かれている、こういう事の説明であります。これについてご意見・ご質問等ございましたらお受けします。いかがでございますか。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ (質疑等なし)
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ まず、1項目目「はじめに」については、そういう構成のもとでここに記した内容でよろしゅうございますか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異議なし
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ はい。では、よろしゅうございますね。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ はい。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ はい。じゃあ、1項目はそういう形でご了解をいただいたということでお願いをいたします。 ・ それでは、2項の方に入ってください。
山田管理主事	<ul style="list-style-type: none"> ・ はい。では、お願いします。基本理念についてもいろいろな案が出たんですけども、今日お示した案としましては、やはりスローガンの様な表現の方が理念としては相応しいのではないかという意見が、教育委員で検討した時にありまして、このような形にさせていただきました。なかでも、佐渡市のいろんな施策の中にグローバルな人材育成、それからローカルな人材育成というふうな言葉が入っておりましたので、佐渡という言葉は外せないだろうということで、ローカルという点で佐渡という用語を入れましたし、グローバルという点では世界という言葉キーワードとして入れさせていただきました。そして、やはり教育の最終的な目標である、自己実現を果たすと、それに向かって努力するということであろうということで、この自己実現という言葉、この3つは外せないだろうということで、それを入れたタイトルとサブタイトルとさせていただきます。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ はい。ありがとうございます。今、事務局の方から説明があったわけですが、ひとつはスローガンの様な表現がよろしいのではないかというのがひとつ。それから、グローバル人材の育成という言葉はもちろん必要であるわけですが、しかし、自分たちの生まれ育ったふるさとというものをしっかりと見つめるという意味ではローカルな人材という言葉、もうひとつは自己実現というキーワード。これらを組み入れた中で、この文言ということであるという説明でございますが、いかがでございますか。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ (質疑等なし)
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 明日の佐渡、世界に羽ばたく、そして一人一人の自己実現、ということです。 ・ いかがですか、これで。よろしゅうございますか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異議なし
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ はい。ありがとうございます。 ・ じゃ、次3と4になりますが、まず3の基本方針についてお願いします。
山田管理主事	<ul style="list-style-type: none"> ・ はい。基本方針としましては、やはりこの学校教育、社会教育、それから家庭・地域教育というこの3つが大きくあるということを示す必要があるだろうということで、まずはこの3つに分けて記述させていただきました。もちろん重なるところもあるので、すべて区別して書いてあるわけではありません。四角囲みにしてあるところは、それぞれの学校教育、社会教育、家庭・地域教育が目指すべき方向性につきまして、特に佐渡市としてはこれを重点に推し進めていきたいということを書きました。 ・ そして、下の枠外に白丸2つとして、これは補足になると思うのですが、そのためにどのようなことに取り組んでいくかということが一つ目の白丸。2つ目の白丸には、その対象であるとかどういうふうに連携をしていくかというふうなことについて説明させていただきました。以上です。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ はい。それではですね、3の基本方針でございますけれども、教育というものは1つは学校教育があるわけでありまして、もうひとつは社会教育がある、もうひとつは家庭なり地域における教育というものが、これは3者一体になってですね、ひとつの教育大綱が出来上がっているということでございますので、まず分けるとしましては、学校教育、社会教育、家庭・地域教育という3つの区分にしていると、こういうことでございます。そういう流れの中で設定をしたということでございますが、これをお読みいただければいかがでございますでしょうか。 ・ まず、学校教育、社会教育、家庭・地域教育という形で分けたことについてのご意見を聞かせてください。これは、こういう形でよろしいですか。
仲川(正)委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私は、これが佐渡市の教育大綱の一つの柱だというふうに思ってますけれども、恐らくほかにはあまり例が無いんじゃないかと、この分け方についての。ここで、明確に学校教育はこう考えているんだし、社会教育はこうだ、家庭・地域教育はこうだということを示すことは大事なことだというふうに考えます。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ じゃあその、大枠の中で、学校教育、社会教育、そして家庭・地域教育という3つの大きな枠組みでやるということについては、ひとつご了解をいただくということで、お願いをいたします。 ・ それでは、まず学校教育の方から内容について、是非皆さん方からご意見をいただきたいと思います。忌憚のないご意見をお聞かせください。
仲川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ ちょっとその前に、この説明をお願いできますかね。項立てはまあこれでい

	<p>いとして。3項目に分けた、これは当然と言いますかね。中身の検討に入るんでしょ。</p>
山田管理主事	<ul style="list-style-type: none"> • はい。学校教育からでよろしいでしょうか。
仲川委員長	<ul style="list-style-type: none"> • うん。
山田管理主事	<ul style="list-style-type: none"> • はい。学校教育については、その四角の中に書いてあるのが方向性ということになります。言葉はいろいろあるんですけども、できるだけ精選して、最終的に残った形というふうに、私どもとしては捉えています。そして、ひとつ目の白丸の中に鍵括弧で5つあるんですけども、基本的には佐渡市の総合戦略であるとか、あとは新潟県の教育振興基本計画あるいは、新潟県の学校教育の重点そのようなところからもってきた言葉です。 • 検討の段階では、1番最後の鍵括弧の教育環境の整備という言葉は、最初の教育委員会の検討の中では入ってなかったんですが、その後の目標にもありますが、安全・安心な学校というふうな視点は外せないだろうということもありまして、それを含めて教育環境ということでここに加えさせていただきました。 • 次の対象というところですけども、学校教育課が扱うところは厳密に言うと佐渡市立幼稚園と小中学校だけなんですけれども、佐渡市の子どもたちという視点で考えた時に、そこだけ私どもがやっていけばよいというふうなことでは、これからの佐渡の教育は立ちいかないと思っておりますので、市長部局という言葉を入れさせていただいて、小さい子どもから大学生も含めて学ぶ環境にある皆さんを、教育委員会は教育委員会の立場で、教育委員会が踏み込めないところは市長部局と連携しながら取り組んでいくというふうなことを2番目に説明しました。以上です。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> • ということです。
仲川（正）委員	<ul style="list-style-type: none"> • いいでしょうか？
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> • はい。
仲川（正）委員	<ul style="list-style-type: none"> • 四角の中についての質問ですが、後半「キャリアアップする人づくり」このキャリアアップという言葉が、私は実は理解できない、これ英語じゃないんですけども和製英語で、そういう和製英語で何を定義しようとしているかわかんような言葉をこの大きな四角の中に入れるということには異議がありません。英語でこれを言ったら、全く通じません。しかも、日本人にキャリアアップって言うと転職というようなイメージがどうしても伴っている言葉、転職によって収入が増えるとか、或いは役職に就くとか。そういうイメージをもった言葉ですので、これはやめた方がいいんじゃないだろうかと。ということと、県の人づくりの方針の姿の中に、非常に気に入っている言葉がある。「ふるさとへの愛着と誇りを胸に」、後半なんですけれども、「粘り強く挑戦し、未来を切り拓く、たくましいひとづくり」。最近の教育に欠けているのは、夢とか希望とかそういう言葉を生徒に言い過ぎて、本来我々はその夢や希望を実現する為に、必要である努力であるとか、挑戦をする力とかそういうたくましさ。そういう、

	<p>かつて認めていた視点が欠けてしまっているんじゃないかというのがあるものですから、なんとかそういう視点を入れられないものかという2点を申し上げた。キャリアアップという言葉はやめた方がよいと。それから、少し人が努力するんだという姿勢を入れられないものだろうかということです。</p>
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> その辺どうですか、キャリアアップ。
山田管理主事	<ul style="list-style-type: none"> 用語としては、キャリアアップする人づくりという言葉で一括りなんです。ちょっと今すぐ出典言えないんですけども、どこかから引っ張ってもってきた言葉です。この裏に隠されているのは、ご指摘のあったように、結局知識の量だけ増えても、人間として役に立つような教育をしていかなければ、いくら知識・理解をもっているけど役に立たなきゃダメじゃないかと、これからの教育というのはそういうことだと思っんですが。そういう意味を含めて、この言葉を使っていますので、もしこの言葉が不相当であって、こういう表現であればそのことで替えられるというようなご指摘・ご意見があれば、それは替えていただいて構わないと思います。
仲川委員長	<ul style="list-style-type: none"> キャリアアップという言葉は出てこないよね。キャリアの発達という言葉は使っているし、いくらも見ただことある。要するに、キャリアアップというのがどういう意味なのかなと、キャリアからまず調べ始めたんですけどね。キャリアをアップするって言うんだからね。やっぱりわからん。私は、このいわゆる方針のままで、方針として定めていますよね。この文言を1行全部ちょっと工夫があるのかなあと。読んでいって、理解しやすい一文に、なんかこうキーワードを繋いでいくという感じがしないでもない。 佐渡を知り、愛し、誇りとし、キャリアアップする人づくり。もっと砕いて言えば、佐渡を十分いろいろなところから知って、これはまあ佐渡学だろうなと私は受けとめたんですけどね、充実だろうなあと。佐渡を愛し、それをしながらキャリアをアップする。この学校教育の方針は何かと一言で言えばキャリアアップする人づくりということなんだろうけど。そこで、キャリアアップとは何かかってぶつかって調べたのはそこなんですけど。 この1行が全体的に、大変こう、人が作った、人様が努力して作ったものをケチ付けるのは失礼なんだけど、そこで本当にこれが方針なのかなと、この思いが先ほどの話に繋がってくるんですけどね。検討したらどうかなと。したがって、下の丸2つが取ってつけたみたいになってしまう。なんかその辺違和感感じてすっきり来ないものですから、率直に述べさせてもらいました。
児玉教育長	<ul style="list-style-type: none"> 人づくりという言葉がいいですか。人材の育成・確保という意味での人づくり、この言葉を使ってもいいですかね。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> 英語の立派な委員もいる中でこういう事を言うのも申し訳ないけど、やっぱり日本人なんだから、なるべく英語なんか使わないで造語なんかより日本語が一番いいんだよな、本当は。こんなこと言うとあれだけ。
仲川委員長	<ul style="list-style-type: none"> 共通認識されているものは使っているんですけどね。一部だけなものですから、

	これじゃいけないと。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> どっかに英語みたいなものがあるんだろうけども、ここはなるべく日本語にしましょう。 キャリア教育というのはどうです？それは、転職するという。
仲川（正）委員	<ul style="list-style-type: none"> いやいやいや。キャリア教育というのは、もっと大きなイメージですので、その職業と人生を見通した設計をしながら生きていく、その都度その都度判断できる教育をするということですので。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> その選択がね。この山田さんだかね、キャリアアップというのは日本語に直すとどうなるんだね。
山田管理主事	<ul style="list-style-type: none"> 私もそこまで深く考えてなかったというのを、反省しているところです。
仲川委員長	<ul style="list-style-type: none"> キャリアっていう語源はさ、もともと何かって言うと、足跡とか競技場のトラック、そういう語源があるんですよ。そうでしょ？英語の先生いるけど。そこに語源があると思うんだよね。それをアップするんだから。理屈っぽいこと言ったな。繋がらなくなってしまうと私は思う。
仲川（正）委員	<ul style="list-style-type: none"> 日本語で今、定着し始めているキャリアアップというのは、つまり職業人生の中でより高位の職種に就いて役職に就いたり、相応の給料を得たりしていくことをキャリアアップと確かに言っているはずですね。そのイメージを我々もってしまっているもんですから、教育の中にそれを入れてしまうということに大変違和感があるので、それでそんな言葉を一切使わないでいわゆる純粋な日本語で表現するようにお願いしたいと。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> この学校教育を、目標というかね方向として、キャリアアップという言葉で日本語で言うとどうなるんでしょうね。
吉田学校教育課長	<ul style="list-style-type: none"> 研究させてください。キャリアアップに代わるよい日本語があるかどうか。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> 佐渡で生まれて育ってる子どもなんですから、佐渡のことを愛するということは大事だと思うんですよ。確かにそう言われて見ると、そこに繋がっていかないような、意味は分からないんだけど、繋がっていかないような気もするんだけどね。
仲川委員長	<ul style="list-style-type: none"> 日本語に変えたらどうなるのかっていうのは、直接は替えることはできないけども、私は言いたいのはやっぱりキャリア教育のそのものを、大切な内容が何かということを考えていけばね、愛し、誇りとし、無理があるけども社会的自立力を育成するとかね、その教育の推進とかね。それはいわゆるキャリア教育の大きな目標の一つでしょ？
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> けどさ、この四角の枠の中に書くものは要約されたものですから、それは単なるキャリア教育だけのこと書くんじゃないで、「学習意欲・確かな学力向上」とか「豊かな心・社会性の育成」とか「健康増進」とか「体力向上」とかね、こういうものを総括したものがここに入るわけですよ？
仲川委員長	<ul style="list-style-type: none"> そういう事です。だから無理してできないんじゃないかと。要約すれば社会

	<p>的自立力の育成と私は言い換えたいくなるけども、あくまでそれはキャリア教育1本でしょと。</p>
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校教育というのは、何をすればいいんだやってそれがそこに来るんだね。 ・ 皆さんのところで、この四角い枠の中をちょっと除こう。今ちょっと飛ばして、下の丸へちょっと入ってくれませんか。丸がまずだめなのかどうか。要は、無責任なこと言うようで悪いけれども、丸がいいっていうものなら丸を要約したものが上へ入れればいいんでしょ、ということになりますよね。ですので、枠をちょっと飛ばしまして、その下の丸があるんですがこれについてはいかがですか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ (質疑等なし)
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ いかがでしょうかね。 ・ 学力向上、社会性育成でもって、健康で体力向上をし、ということになると、これに尽きるんじゃないですか。
仲川(正)委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古い言葉で言うと、知育、徳育、体育。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ はい、そうですね。
仲川(正)委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ それがこの3つですね。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ これはお互いに連携してやるというのが今回の総合教育会議の狙いですからね。事務局として、この下の丸はいいけども、上の丸の1、2、3、4、5、これは非常に難しい提案なんだけども、要約したものをここへ考えてくれませんか。
児玉教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 四角の中にですね。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 四角の中にさ。要するに、四角の中ってのはさっき言うようにスローガンとか、全部要約したものがぼんとそこへ行くわけでしょ？特にこのなるべく日本語を使うようにして、キャリアアップなんていうのはやめて。 ・ それで、その四角い枠のを作って、今日もう何時間やってもだめなんで、原案を作って5人の委員の方々にちょっと話をして、その辺で修正をしてもらいなり、意見をもらってください。
吉田学校教育課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ はい。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次に、社会教育の四角い枠の中よりも、丸をひとつまず検討してください。「支え合う人づくり」、事務局説明してください。
山田管理主事	<ul style="list-style-type: none"> ・ はい。これも佐渡市の示している総合戦略の中から言葉を見つけて入れたものです。4つの鍵括弧の中にはそこから来たもので、これが生涯学習の推進の中では適しているというふうに捉えました。 ・ 2つ目の対象につきましては、生涯学習・社会教育ですから、すべての佐渡人ということで、そのようにして連携して努めるというふうな表現にさせていただきました。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ はい。そういう意味で、この社会教育の項目については丸が2つありますが、

	<p>今のような意図、理由で書いたということですが、それを合わせて要約したものが、その四角い枠の中に入るわけですので。</p> <ul style="list-style-type: none"> • これ、県の場合は社会教育というのと分けているもんですかね。
仲川委員長	<ul style="list-style-type: none"> • ちょっと読んでて気になるのはね、佐渡人という言葉。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> • 2番目ね。
仲川委員長	<ul style="list-style-type: none"> • ええ。佐渡人としていうのはちょっとひっかかるかなあと思いました。それから2つ目はですね、生涯学習を云々したわけだから、これ文科省の基本計画に謳ってあるように、自立・生涯学習への自立・創造・協働のこの3つのキーワードというのがね、これを外してはいけないように思うわけなんですけど。なんか含められないかな。後で丸の中になるような感じがした。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> • 自立・協働、何ですか？。
仲川委員長	<ul style="list-style-type: none"> • 創造。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> • 自立・協働・創造ってのは学校教育にはそういう言葉はないんですか。
仲川委員長	<ul style="list-style-type: none"> • 文部科学省の生涯学習の。
児玉教育長	<ul style="list-style-type: none"> • 国の教育振興基本計画のキーワードで、学校教育も社会教育も全て含んだキーワード。
仲川委員長	<ul style="list-style-type: none"> • 教育振興基本計画の5ページ。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> • まずひとつね、この佐渡人という言葉。 • すべての項目においてやっぱり対象というのが2つ入るわけだからね。
仲川委員長	<ul style="list-style-type: none"> • 簡単に、「すべての市民」でいいのかななんて、佐渡人て言うとなんか意味あるんだかななんて。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> • その辺なんかあるのか、佐渡人ていうのに。
山田管理主事	<ul style="list-style-type: none"> • 元々の原案がですね、オール佐渡っていう表現をしてたんです。ところが、そのオールっていう先ほど言った英語じゃないですけども、日本語でいいんじゃないかって言う時に、すべての佐渡人というふうに戻したということで、今ご指摘のとおりだと私も思いました。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> • どうしても佐渡入れたかったら、全ての佐渡の市民でもいいんじゃないですか。佐渡を入れなきゃならんということではないだろうから。 • 表題がだって佐渡市の教育大綱。まずそのさ、すべての佐渡人ていうのをさ、すべての市民。
山田管理主事	<ul style="list-style-type: none"> • はい。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> • それからもう一つは、自立・協働・創造っていう言葉がどこかに入らなきゃならないって言うんだけど、それは。
仲川委員長	<ul style="list-style-type: none"> • 入らないですかね。大事なキーワードだと思ったんですけど、皆さんどうかなと思って。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> • そうすると、上の丸の中に入る、これは丸が2つでなきゃならんということもないんでしょ？ • それは皆さんいかが、他の県の振興基本計画とかにあるんですか。

仲川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ うん。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ ああそうか。自立・協働・創造の3つの理念が、実現に向けた生涯学習社会を構築ってこれね。 ・ これ、ここに入れりゃいいんだ、これ。
仲川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 意見だけ皆さんから出してもらって、事務局で具体的になったのをまとめてくれば作れますね。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ これはしかし、委員長ね、思いつきみたいで悪いけども、生涯学習をやりましょう、が必要ですと、その生涯学習をやる段階には、自立・協働・創造という要素を入れなさいと、こういうことなんだよね。そうでしょ？
仲川委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 方向性を示している。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ そういうことですよ。だからその生涯学習の推進という中には、それを目標にしてやれというのが自立・協働・創造なんだよね、これ見ると。だって、創造ってというのは、自立・協働を通じてさらなる新たな価値を創造していくことのできる生涯学習社会。自立の場合、一人一人が多様な個性・能力を伸ばし充実した人生を主体的に切り開いていくことのできる生涯学習社会と。 ・ だから生涯学習というのは、この3つのポイントですよということを言っているから、生涯学習を進めるということではんと謳った場合、次のところに出てくるような流れに。
児玉教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・ この国の教育振興基本計画のはじめのところ、前文というこの1ページのところにもまず最初に出てくる、「今正に我が国に求められているもの、それは、「自立・協働・創造に向けた一人一人の主体的な学び」である。」と。それから、国の今度この計画の全体のキーワード、生涯学習だけに限らず、この自立・協働・創造ってというのは、いろんなところに出てくる形で、生涯学習に特化したキーワードじゃない。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ いやいや、これ見て今言ったんだけどさ。その、「今後の社会の方向性」という中で、「自立」「協働」「創造」の3つの理念の実現に向けた生涯学習社会を構築」しますと、これがあるもんだから、そう言ったんですね。 ・ みんなもってるものが違うのかな。右の方にあるでしょ。
児玉教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・ あ、これですね。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ あるでしょ？
児玉教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・ あります。これですね。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ そこの中で、理念の実現に向けて生涯学習社会をやると。だから、創造・自立・協働というのは、基本目標の中の（5）の中で一人一人が学び続ける生涯学習…、なんか環境の充実があるって。それに基づいて、教育振興基本計画を作るわけですよ。教育振興基本計画の中でこういうものを、この3つを目指すというものが出されてくるんじゃないのかという。
児玉教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・ そうです。そのとおりです。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ そうしますと、これいちいちやったらこれは大変なことなんで、今のご意見

	<p>があったので、それをちょっと参酌して、さっきの話じゃないけれども、また5人の委員の方々の、要は事前にお話をして了解を取ってください。</p>
吉田学校教育課長	<ul style="list-style-type: none"> • わかりました。はい。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> • 次、家庭・地域教育、これ説明してください。
山田管理主事	<ul style="list-style-type: none"> • はい。実は、学校教育と社会教育については、柱立てしているところは大綱の中に結構あったんですけども、家庭・地域教育についての扱いについては、大きく取り上げているところもあるし、ほとんど取り上げてないところもあったんですが、佐渡市としてはやはり家庭・地域教育の充実は大事だろうということで、この項目は外してはいけないのではないかという事務局の考えで、この3本柱的に3つめに取り上げさせていただきました。 • 今、家庭の教育力とか地域の教育力が落ちてきているというふうな事も言われておりますので、それぞれの役割というものをまずしっかりと明確にした上で、それを適切に果たすような後押しを我々でしていこうと。家庭や地域であると、最終的な責任は家庭や地域にありますので、踏み込めないところも当然あるんですけども、それに対しての後押しができるような支援をしていきたいというふうな思いでここに掲げさせていただきました。ですので、四角囲みの中では、役割を適切に果たすという文言を入れさせていただいて、充実させていきたいという表現にしました。 • そして、これは先ほど説明をしたとおり、最終的には家庭や地域ががんばっていただくものも多くあるわけですけども、それが進められるような体制作りを我々の方でやっていかなければいけないという思いで書かせていただきました。 • 当然そうなれば、家庭・地域ということになれば教育委員会だけではなくて、いろんな佐渡市の施策を立ち上げているところと連携をしていく必要がありますので、市長部局という言葉にそこをすべて含ませていただきまして、これが連携して向上に努めるという用語にさせていただきました。以上です。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> • はい。それで、私も素人なんですけども、ちょっと質問をさせてください。家庭・地域教育という言葉はあるんですね？
山田管理主事	<ul style="list-style-type: none"> • 家庭教育、地域教育というのが一般的な言い方です。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> • ありますね？
山田管理主事	<ul style="list-style-type: none"> • はい。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> • 家庭力、地域力っていう言葉もあるんですね？
山田管理主事	<ul style="list-style-type: none"> • あるかどうかと言われると自信がありませんが、家庭の教育力、地域の教育力という言葉はありますが、それをちょっと単純化と言うか、略させていただいた言葉になります。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> • 素人なんだけど、家庭力の向上って、何を一体やりゃいいんだってなると思ったんだけど、そういう言葉があるならね。

仲川（正）委員	<ul style="list-style-type: none"> 今の、家庭力、地域力は変えた方が良いね。
山田管理主事	<ul style="list-style-type: none"> 家庭及び地域の教育力とかっていうふうになればわかりますでしょうか。
仲川（正）委員	<ul style="list-style-type: none"> なると思いますけどね。
山田管理主事	<ul style="list-style-type: none"> 家庭及び地域の教育力。
仲川（正）委員	<ul style="list-style-type: none"> 私はこの項目は大変すばらしい項目だというふうに思っているんですけど、ただ問題は、これを基本目標に落としさらに施策に落とした時に、どんな施策が取れるかと。家庭にどうやって行政が踏み込めるかっていうところの方が大きな問題じゃないかなと。本当にそのアイデアがあるのかどうか。結局それが心配なもんですからね。 是非やってもらいたい。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> じゃあ、家庭力、地域力とかね、これちょっと今のお話ですと変えましょうということ。
山田管理主事	<ul style="list-style-type: none"> はい。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> 学校において、学校の先生方だけが教育をするんじゃなくて、家庭においても地域においても子どもたちの教育をしていくと、みんなで一緒になってやるということでは？一般論から言えば。 そうすればこの丸の家庭力、地域力というのをひとつあれしてください。
吉田学校教育課長	<ul style="list-style-type: none"> はい。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> それから、四角い枠の中にある家庭・地域教育、少々長くなってもいいですから、わかりやすい言葉にしてくれませんか。 今、そういう意見がございましたんでね。この辺もちょっと参酌していただいて、これもさっきのと同じようにしてください。
吉田学校教育課長	<ul style="list-style-type: none"> はい。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> で、次にね、座りが良いとか悪いとかっていうお話がありましたけど、いずれにしても皆さんでご理解いただいたということで、これに基づいた4の基本目標をやりますから、当然、学校教育、社会教育、家庭・地域教育におけるそれぞれのものの項目立てが6つの中に入っているということでもいいんですよ？
吉田学校教育課長	<ul style="list-style-type: none"> そうです。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> ですね、はい。それをちょっと説明をしてください。
山田管理主事	<ul style="list-style-type: none"> はい。目標が6つあるんですけども、基本的には1番から4番までは市として学校教育を中心として進める、或いは学校教育でやっていくものというふうに考えています。 そして5番が社会教育。6番が家庭・地域教育というふうな形になります。どうしても内容的にその目標の柱としては学校教育の部分が多くなってしまっ

	<p>ているんですけども、県のものとか振興基本計画等も見させていただきましたけども、必ずしもみんなが同じバランスというふうになっておりませんので、今のところの佐渡市の提案としましてはこのような目標でどうかというふうに考えています。</p>
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> • はい。
山田管理主事	<ul style="list-style-type: none"> • 1番の方は主として学力向上です。2番の方がいわゆるキャリア教育のことです。3番安全・安心な学校づくりというのは、ハードの部分もそうですが、生徒指導であるとかそういうふうないじめの防止ですとかそういうのも含めての安全・安心という意味で掲げてあります。4番の高等教育というのは、大学や専門機関とできるだけ連携していきたいということで連携の強化ということで書かせていただきました。 • 社会教育の方は、いくつか案があったんですけど、最終的にはこの1文にまとめるような形にさせていただくということで今のところ考えています。 • 6番についても同様です。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> • さっきね、仲川委員長がおっしゃってた自立・協働・創造というのがあったでしょ。これ見て言ってるんだけど、この中では自立・協働・創造の3つの理念の実現に向けた生涯学習社会の構築って書いてある。ならば、ここで一人一人が学び続ける自立・協働・創造を目指して生涯学習を充実でもいいんじゃないか、極端なこと言えば。さっきのここに入れるなら。
仲川委員長	<ul style="list-style-type: none"> • 次の施策には繋がっていきますよね。 • ちょっと質問いいですか。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> • どうぞ。
仲川委員長	<ul style="list-style-type: none"> • この(4)。高等教育云々。これに関してなんですけど、今、高校や大学との連携を取りながら、とっても大事なことであるし、島外の、県外ではなくて島外の市町村なら大学も身近にあたりね、高校は佐渡でもあるんですけど、大学のことが頭にあるものでしゃべってるんですけど、大学との連携。本当にうらやましいぐらいのいろんな実践がなされている中、佐渡の場合はどういうことをイメージして受け止めているんですか。
山田管理主事	<ul style="list-style-type: none"> • はい。佐渡市にも大学の専門機関的なものはいくつかありますので、例えば学校教育の中や、社会教育の中でそういうものも活用していくというようなこと、あるいは、大学の先生等をお呼びして学校教育の中で、その先生から専門的なものを教わるような機会を作っていくようなことで。県の方は確かに充実なんですよね。というのは、県には大学があるわけですので。佐渡市は大学が無いので、充実という書き方はできません。ですが、無いからと言ってそのまま何もしないのではなくて、やはりこれから先そういうところと積極的に、意図的に連携をしていくような取組が必要なのではないかとこのように考えています。 • ここで言う高等教育というのは、大学教育以上ということで捉えています。

仲川委員長	<ul style="list-style-type: none"> 願望としてはわかるんだけど、具体的にちょっとまだ理解してない話でわからないんだけど、本当に充実してそれこそ強化してそういう取り組みが出来ればいいことだと思うんだけど。なかなか自分としては具体的に浮かんでこないもんだからね。ここへ掲げて、形だけで終わらせたくないなとそんな思いが強いもんですからね。
児玉教育長	<ul style="list-style-type: none"> 追加して、この前の高校の持続可能なもの、そういった高校の取組があるということで話をしたんですけれども、その辺り高校の事だからというんで、形じゃなくてそういった高校の取組にも関心をもってですね、タイアップしていければという思いもここに含まれています。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> 一つの事例としてはですね、佐渡には大学が無いんだけど、大学との連携はやっていかなきゃならないと思ってますし、今 33 の短期を含めた大学との佐渡市は一部は包括協定を結んでいる大学もあります。ありますからそこの連携をしています。 それから、この前法政の田中優子総長が来てその時も約束した、法政大学の剣道部がね、80 人佐渡に入って来ています。それを、今回はできないんだけど、佐渡の小中高の剣道部の指導にもあたってもらうことの約束をしてくださって、そういうようなものをこれからやっていかなきゃならんのかなって思っています。むしろ強化をしていきたいと思っております。 それから、もうひとつの動きとしては、今大正大学がですね、地域協定を佐渡にもってくることになっておりますのでそういうところとの連携強化を図る。COI の関係で東京大学はちょっとあれですけど、違う部分での東京大学の事業をやる拠点を佐渡にもってくるという、動きになっています。そういう意味では、ここに書いた強化ということを書いたものが、単なる標語だけに終わるということではないし、むしろ学校教育ということよりも、佐渡全体の地域づくりの中でやっていきたいと。
仲川委員長	<ul style="list-style-type: none"> そっちの意味合いの方が強いんですね。私聞いたのはあくまで義務のことが頭にあるもんですからね、大学のああいう活動がさっき言ったように島外の一部の大学ですと、いろんな取組ありますよね。佐渡の場合そういうのができないもんですからね。義務の小中でどういう関わりができるのかなと思って、そういう事が常に頭にあるもんですから。今の市長さんの今までのいろんな努力で地域のとかね、社会体育の面でも随分こう大学との交流というのがね、力をいただけてますよね。よいことだと思ってるんですね。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> むしろ、今の段階では地域なんですよね。相模女子が今、高千の方に来て一生懸命やっていることとか。今、一ツ橋、早稲田、神戸が能で今入ってますから、例えばそういうものがあるし。県立大学なんか前浜の方に入ったりと。いずれにしても 33 くらいの大学が今入って地域づくりの方をやってますしね。 それが、小学校・中学校でどうやって彼らが活動するのかというところまでいってないのよね？

児玉教育長	<ul style="list-style-type: none"> • そうですね。
仲川（正）委員	<ul style="list-style-type: none"> • ひとついいですか。先ほど、基本理念を立てる時に、明日の佐渡を創る人、世界に羽ばたく人の育成というこういう大目標・大理念をほぼこれで決定かなというふうに思いますけど、これを作りました。 • これと、今の基本目標の（４）高等教育・研究機関との連携の強化、これは大変厳密に関わってくるんじゃないかと私は思っています。佐渡の中ですべての教育を完成してしまうようなそういう言い方ではなくて、どんどん外から知恵を入れて、じゃあ明日の佐渡を創っていくためにはどんなもの見方、或いは世界的視野が必要かということ、この（４）を利用して是非進めてもらいたい。今後それを施策として入れてもらいたいなというふうに思います。 • 先ほど、児玉教育長の方から少し高校の話が出ましたが、簡単に総括しておきますと、これまでの３年間、佐渡島内の５つの県立高校は新潟県から指定を受けまして、オンリーワンスクール・ステップアップ事業の中の、グローバル人材育成推進事業というのを相当のお金をいただいて、少し佐渡市からも協力していただいて、３年間続けてきました。どちらかと言えば英語、共通言語としての英語に重きを置く、そして海外との交流活動に重きを置く事業でありましたが、この中で例えば、高校で主催するものだけでも、中学生にも声を掛けて各中学校からスピーチをやる。子どもたちを集めて、その子たちが高校へ入るとさらに素晴らしい教育が待っているんだという意識付けをしながら、学習意欲を掻き立てることができた。とにかく５つの高校が連携して様々な事業を展開できた、これが大きな成果でありました。 • そのことを実は文部科学省が目をつけてくれまして、声を掛けてくれたんですね、昨年度です。どういう声かということ、SGHってスーパーグローバルハイスクールという、まだ例が無いんですが、これに応募してみないかと。佐渡はこれだけの実践力があるんだから、これに応募してみないかということで、各高校が連携をして佐渡高校を窓口にして、例にして、もっと大きく英語だけに捉われないで、佐渡にある環境そのものを利用した教育を国際的にやってみないかということで、例えば里山資本主義のアイディアであるとか、或いは東大のサステナビリティの研究所がありますけど、その知恵を拝借しながら例えば東大との連携の中で、佐渡のエネルギー問題をどうやって道筋をつけていくかというような教育に取り組んでいくと。そういうところまで計画を立てて去年、文科省に持って行って審査をしてもらい、残念ながら第１年目でありましたので、合格というところまでいきませんでした。今年もう一度チャレンジしようというところまで来ています。 • 現実はまだそこまで来ている。だから、それを行政としてもしっかりと応援できるように基本目標にもう取り込んでしまってもらいたい。高校で取り組んでいるそれが実現すれば、これが中学校・小学校へ必ず降りていきますので、高校のやっていることは中学生が見てるし、それは必ず影響力があり、そして

	人を派遣したりということが出来るはずですので、これを私は基本理念と関わりのある大事な項目だと、基本目標だというふうに考えました。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> • はい。ありがとうございます。了解いたしました。今、実績等々お話しいただきましたし、これからそういう事を目指していかなければならないし、むしろ世界に羽ばたく人材という視点からは重要な項目でありますので、これは4はこのままいくということであります。 • あと、1、2、3、4、5、6とあるわけではありますが、1から4までがいわゆる学校教育関係、5が社会教育関係、6が地域・家庭教育関係ということになるわけです。この柱立てとしてはこれでよろしいかどうか、これに基づいて、今度はさっき言った教育振興基本計画ができるわけでしょう。むしろそっちの方が面倒なんですよ。 • この(1)～(6)までのこの柱立てで28年度末までに作る教育振興基本計画の柱立てとしてよろしいかどうかでございますが、いかがですか。これでよろしいでしょうか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> • (うなずく)
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> • はい、じゃあそういう形。 • それじゃあ先ほどなかなかまとまらなかった、進行も悪かったんでしょけど3の基本方針については、今委員の方からいろんなご意見が出ましたので、それをここの中に取り込むことにしてですね、さらにそれを要約したものが四角い枠の中に納めると。なるべく横文字は使わずに日本語でいくと。ましては、キャリアアップという言葉はちょっとおかしいんで、これはちょっとやめていただくということ。それからもうひとつは、家庭・地域教育というような形の言葉がいいのかどうか。或いは、家庭力とか地域力とかいう言葉がいいのかどうか。少々これ長くなったとしてもわかりやすい言葉で収めるということで、それをもう1回作り直してですね、その部分だけですからね。それを作り直して教育大綱としてのものを、事前に5人の委員の方々にお示しをしてですね、ご意見を頂戴をしながら、今度10月かなんかにやるんでしょ？
吉田学校教育課長	<ul style="list-style-type: none"> • はい。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> • その時に、最後のものになるんですね。
吉田学校教育課長	<ul style="list-style-type: none"> • はい。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> • ですから、10月の最後の時には、あまり司会を苦しめないような形でまとめておいてください。そうすればすんなりいくと思うので。 • そういうことで皆さんいかがでしょうかね。今日の流れとしては。そういう事で今日は皆さん方にお約束をさせていただいて、一応佐渡市の教育大綱の案についての方向、そして本文を修正をして皆様方にまたご意見を頂戴をするという事を事前にこれから進めて参るということで、ご了解をいただきたいとい

	<p>うふうに思っております。そういうわけで、いろんなご意見をいただいたわけでございますので。</p>
仲川委員長	<ul style="list-style-type: none"> • ちょっと積み残しといたしますか、基本方針の学校教育に関連して、キャリアアップの話題のところ、先ほど学校の本来目的は何なんだという、さっきこうおっしゃったような気がするんだけど、人格の確立だとか云々てのは、いわゆる文科省の教育振興基本計画の中に、こういう定義付けがしてあるんですね。つまり何かというと、私あの社会的自立力の育成というこの言葉以前から大事だと思っているんですがね、先ほどもちょっとそれに触れましたけど、お手元の8ページの所に出てくるんですけど、一番下から3つ目の丸の所に、義務教育段階というところ。「義務教育段階は、個々人の能力を伸ばしつつ、社会的自立の基礎、国家・社会の形成者としての基本的資質を養うことを目的としている。」義務教育段階はこれこれを目標としているてなところで、社会的自立の基礎っていうのを謳っているんですよ。そうすると、私も今までキャリア教育に関連して、社会的自立力の育成であるとかね、社会的自立ってことを使って話したり会議をしてきましたけれど、ここでやはり学校教育の方針の中にこの言葉を取り上げて、それで下の方に丸なり施策の方にも生かしてやるのが大事では無かろうかなとそんな気がしているんですが。皆さんこれをお読みになっていると思うんですが、ちょっと触れておきたいなと思ひまして。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> • だから、さっき言ったキャリアアップっていう言葉は、これはもうやめるわけだから、それに代わるようなもので、私もこれ全部読んでないのでわからなけれども、そういう日本語の要素を四角い枠の中に入れてください。
吉田学校教育課長	<ul style="list-style-type: none"> • はい。
甲斐市長	<ul style="list-style-type: none"> • そして、事前に委員の方々にお配りをして、ある程度の集約をしていただくということです。これをひとつお願いしたいと思っています。 • 基本的なことはやっぱり守ってもらわなきゃならんけど、ほかのを真似する必要は全くないんでね。基本的なものだけはぶれないように入れていただきたい。そういうことでひとつお願いをしたいと思っています。
吉田学校教育課長	<ul style="list-style-type: none"> • はい、ありがとうございました。本日ご協議いただき、ご意見を賜りました事項につきましては、特に先ほどの基本方針、四角の枠内の方向性等については、こちらの方でまた文言をしっかりと整理した上で委員の皆様方にお示しをし、それを次回の会議に提示をさせていただきます。 • なお、次回の日程につきましては10月の最終の週を今のところ予定しております。本日はご協議大変ありがとうございました。 • 以上をもちまして、第2回の佐渡市総合教育会議を閉会いたします。ありがとうございました。